



津地検の魅力は何ですか？

私が津地検に入庁して感じたのは、「温かい人が多い」ということです。初めは全く分からないことが多い中、周りの先輩に丁寧に仕事を教えていただきました。廊下で会う方にも「仕事は慣れてきた？」などと、優しくお声がけいただくことも多かったです。入庁前にイメージしていたお堅い雰囲気といったものは全くなく、温かい空気が流れているなあと感じています。休暇に関しても、職場の上司から休むようにお声がけいただくこともありますし、自分から申告して休みをとることもでき、夏季休暇や年末年始など、長期の休みがとれることで、プライベートも充実させることができます。



職場はどのような雰囲気ですか？

社会人1年目の私にとっては、職場という空間に入るのは初めてでした。周りは知らない人ばかりで入庁の初日はとても緊張して自分のデスクにつきましたが、隣の席の先輩にとっても優しく声をかけていただいて気持ちが和らいだことを覚えています。基本的に、部屋の先輩方は黙々と仕事をこなされていますが、ときどき雑談をしたり、分からないことを聞いたりしてコミュニケーションをとることも多いです。





仕事で意識していることは何ですか？

検察庁の仕事は、個人の重要な権利に関わることが多いことから、「正確な仕事を行う」ということを意識しています。また、そのために行っていることとしては、「報・連・相」を怠らないということです。自らが受け持っている業務の進捗状況の「報告」、知り得た情報の「連絡」、判断に迷う業務の「相談」、これらを怠らなく行っていくことがより「正確な仕事」へと繋がるのだと思います。



法学部出身でないと検察庁で勤務するのは難しいですか？
また、取得した方がいい資格などありますか？

よく、法学部出身でないと検察庁で勤務するのは厳しいのではないかと心配される方も多いですが、そんな心配をする必要はありません。入庁してから約1ヶ月経つと、初等科研修という研修に参加し、法律の基礎を学ぶことができますし、実務をしながら覚えられることも多いので心配することはありません。また、毎年2月頃には、若手職員を対象とした法律科目等の習熟度を計るテストがあり、そのテストに向けた勉強会なども行われるため自然と法律が身につく環境にあると感じます。法律が苦手と感じている方もこのような勉強会で克服できるかもしれません。

次に、資格に関してですが、部署によっては、持っていた方がよいと思われる資格(例:簿記検定等)もありますが、検察庁で勤務するために必要とされる資格はありません。



パソコンが苦手でも大丈夫ですか？

大丈夫です！心配することはありません！

私は、検察庁に入庁するまで、タッチタイピングは全くできず、1本指でゆっくり入力するだけでしたが、現在では、スムーズにタイピングができるようになりました。

日々の業務の中で自然と慣れますし、練習ソフトもあるので心配はいりません。Excelなども使用し、時には計算式など高度な操作をすることもあります。先輩職員からのサポートもあり、初心者の私でも安心して業務に取り組むことができます。





先輩とのコミュニケーションはどのように取っていますか？

私が先輩とコミュニケーションをとる上で工夫していることは、相手とした会話の内容をある程度記憶することや積極的に話しかけに行くことです。会話の内容をある程度記憶することは、沢山の人がいる中で大変そうに感じますが、その人にあった会話の内容を探ことができ、仲が良くなるとプライベートでご飯に連れていってもらえたり、仕事をするときも分からないことをすぐに聞きにいけたりできるので、工夫するのとしらないのでは職場での過ごしやすさが凄く変わります。それぞれ自分に合った工夫の仕方があると思いますが、自分自身が先輩になった時にどんな後輩だと接しやすいかを考えて行動することが大切だと思います。



何時に退庁していますか？

私たち新規採用者の場合は、定時(17時15分)に帰ることが多いですが部署や時期、突発的な対応等により、必要に応じて残業することはあります。先輩方を見ていると、大きな仕事を任せられたときなどに、夜遅くまで残って勤務することもあるようです。

